

1. 活動の概要

6月5日(月)、飯南町立赤名小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに、小学校周辺の文化財について説明を受けました。次に、飯南町から出土した土器について実物を見ながら説明を受けました。志津見ダムを造る前に発掘した遺跡から発見された縄文土器には時代の呼び方の由来となった、縄文で飾られていることを聞きました。

それから体験活動に「金属鏡」を希望されていたので、「鏡」について話を聞きました。実物の鏡をみて、顔が映ることを確認したり、意外と大きいことに感心していました。

そして、いよいよ「鏡作り」に取り掛かりました。金属の溶け方が不十分だったのか、穴が空いたり、でこぼこができたりしてしまいましたが、紙やすりや磨き粉を使って磨くとピカピカの鏡ができあがりました。

2. 活動の様子



鏡のレプリカに顔を映したよ



緊張の一瞬！鏡を铸型から外します。



懸命に磨いています！

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・大きい銅鏡があるのをはじめて知ってとてもびっくりしました。赤名にも方墳があることもびっくりしました。
- ・銅鏡は昔とても貴重なものだったけど、それを作れたことがうれしかった。
- ・銅鏡作りで時間がかかったけど最後の仕上げで鏡みたいになったのでよかったです。
- ・銅鏡を磨いたのが心に残ったので、また松江に行って作ってみたい。

2) 担任の先生から…

- 学校周辺の遺跡についてわかりやすく説明していただき、さらに銅鏡作りによって意欲が高まった。
- 難しいかもしれないが、社会科の進展と併せる(4月～5月初め)ことができるとさらに良い。
- 次に6年担任になったときにもぜひ申し込みたい。その際にはフィールドワークで遺跡学習をお願いしたい。

3) 埋文センターから

遺跡地図によって学校の周辺に多くの遺跡があることを知った児童のみなさんは驚きの声を上げていました。また実際の出土品を間近に見学して驚いたという感想が寄せられました。

鏡作りでは、穴が空いたり凸凹ができたりして苦戦する児童もいましたが、頑張って時間内に完成することができたようです。金属をとかし、型に流し込み、研磨して仕上げるという鑄造の工程を体験し、古代の鑄造品に関する理解を深めることができたのではないのでしょうか。